

紀 要

第 7 号

目 次

二つの前方後円墳	(細川修平)...	1
滋賀県出土の埴輪資料集(その4)	(稲垣正宏)...	27
近江へのアプローチ・その1		43
1. 高島郡の地形と条里	(神保忠宏)...	44
2. 高島郡における遺跡の動態 —今津町周辺をフィールドに—	(畑中英二)...	50
3. 高島郡の古代寺院	(重岡卓)...	57
4. 高島郡の鉄生産とその周辺	(大道和人)...	61
5. 高島郡の古代北陸道	(内田保之)...	66
6. 高島郡にみる古代国家	(細川修平)...	71
南北方位建物についての研究ノート	(田井中洋介)...	77
近江京域論の再検討・予察—7世紀における近江南部地域の諸相—	(相原嘉之)...	83
滋賀県における古代の土器様相・その1		
—湖南地域における無台杯身・かえり付き蓋の変遷を中心に—	(畑中英二)...	104
江州農具雑想ノート	(上垣幸徳)...	126
滋賀県甲賀郡土山町における蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布		
—土山町石造美術石材分布調査概要—	(兼康保明)...	131
滋賀県内出土漆製品集成—後編—	(中川正人)...	145

1994. 3

財団法人 滋賀県文化財保護協会

滋賀県甲賀郡土山町における 蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布

— 土山町石造美術石材分布調査概要 —

兼 康 保 明

1. はじめに

蒲生郡日野町蔵王に産する、「米石」と通称されている細粒黒雲母花崗岩を用いた中世の石造美術の分布について、これまでに蒲生郡日野町、蒲生町、神崎郡永源寺町、八日市市とその分布を追跡してきた。この1市3町の分布調査で、湖東の鎌倉～南北朝時代における「米石」の中世石造美術の分布圏はほぼ確定した⁽¹⁾。

こうした湖東での一連の分布調査中に、田岡香逸氏の近江での調査報告より、「米石」の中世石造美術にみられる近江式装飾文の内、特色ある三茎蓮文や孔雀文について検討を行った。その中で、特に注意を引いたのが、『近江の石造美術』1⁽²⁾に報告がなされた甲賀郡土山町大河原や鮎川にみられる宝篋印塔の基礎の構造と文様であった。基礎は壇上積式で、格狭間内に施された三茎蓮文は、まごうことなき蔵王の石大工による特色ある三茎蓮文である。また、平成4年に予備調査として土山町前野で見た石造美術の中に、「米石」を用いたものが確認された。こうしたことから、日野町に隣接する土山町にも、「米石」の中世石造美術の分布が及んでいることを確信し、八日市市の分布調査が終了してから、調査を土山町に移すことにした。

ただ、水口丘陵を挟んで日野町に隣接する甲賀郡水口町は、田岡氏の調査をもとに、その後に知られたものをも含めて、距離的にはそう遠くないものの「米石」製の石造美術はほとんど見当たらない。しかし唯一、八光の東見寺で、南北朝時代末期の宝篋印塔の残欠が確認された。これについては、別に報告した⁽³⁾ため、ここでは詳細は割愛する。

2. 調査の方針

土山町については、鎌倉・南北朝時代の石造美術を中心に石材調査を行った。さらに、近江式装飾文と石材の関係を見るため、これまで調査してきた日野町・蒲生町・永源寺町・八日市市とは少し異なり、一部室町時代の宝篋印塔も含めて調査を行った。

調査は、『近江の石造美術』1と『民俗文化』に報告された、田岡香逸氏の土山町の調査報告を基礎資料とし、それに漏れているものは池内順一郎氏の『石造遺品』2集⁽⁴⁾で補足、再調査したほか、新たに発見された資料を若干補充した。なお、田岡氏の未報告のものについての個々のデータについては、別に『民俗文化』誌上に報告している⁽⁵⁾。

鮎川の黒河家墓所と今井家墓所の総高3尺ほどの小形宝篋印塔は、室町時代のものについては、

本稿の目的とする近江式装飾文をもつ基礎のみを記し、室町時代の基礎側面を装飾しないものは省いた。今回省いた宝篋印塔の石材は、蔵王産ではない花崗岩であった。墓地内の石塔の詳細については、田岡香逸氏の「近江土山町の石造美術―鮎河と黒川―」^④を参照されたい。

3. 土山町所在鎌倉・南北朝時代主要石造美術一覧

【凡例】

1. 掲載した各石造美術の石材の内、日野町蔵王産の加工岩のみ「細粒黒雲母花崗岩（米石）」とした。
2. 宝篋印塔の基礎は、注記の無い場合は、上部は二段式で、側面は輪郭と格狭間をもつものである。
3. 鮎河の黒河氏、今井氏墓所の宝篋印塔の基礎は、田岡氏の『民俗文化』報告の番号を略し付す。
3. 在銘品以外で西暦のあるものは田岡香逸氏の編年観による。田岡氏の編年を修正した場合には、備考に田岡氏の年代観を載せた。
4. 田岡氏が未調査で、今回新たに調査したものは、年代は兼康の編年観による。
5. 石幢は2例あるが今回の一覧からは除外した。調査した結果、石材は花崗岩であった。

① 層塔

1. 瀬ノ音・清涼寺 鎌倉中期かそれ以前 花崗岩
五重（笠と軸は別石造り）
基礎、塔身、笠3層、軸2
兼康・『民俗文化』368
2. 前野・共同墓地 鎌倉後期（1305年頃） 米石
基礎を欠失。
塔身に尊像（四面）・笠五層
『民俗文化』163 1500p
(備考) 現在、前野の地安寺に移されている

② 宝篋印塔（南北朝時代後期から室町時代初期にかけてみられる同一意匠の近江式装飾文を施すものは、便宜上ここに含めた）

3. 頓宮・東光寺 鎌倉後期（1305年頃） 花崗岩
塔身残欠。
塔身に尊像（四面）
『民俗文化』162 1495p
4. 市場・長泉寺 鎌倉後期（1305年頃） 花崗岩
塔身・笠。

- 塔身に月輪内に種子（四面）。笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は種子。
『民俗文化』163 1503p
5. 頓宮・東光寺 鎌倉後期（1315年頃） 花崗岩
塔身残欠。
塔身に尊像（二面）、種子（二面）
『民俗文化』162 1495p
6. 頓宮・東光寺 鎌倉後期後半（1320年頃） 花崗岩
塔身残欠。
塔身に尊像（四面）
『民俗文化』162 1494p
7. 頓宮・東光寺 鎌倉後期後半（1320年頃） 花崗岩
塔身、笠。
塔身に種子（四面、ただし一面のみ月輪無し）、笠の隅飾は二弧で内部に月輪
『民俗文化』162 1496p
8. 前野・滝樹神社 鎌倉後期後半（1320年頃） 花崗岩
完存。
基礎に格狭間（三面）、一面は切り放しの素面。塔身は尊像（一面）と月輪内に種子（三面）。笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面
『民俗文化』162 1496p
9. 前野・地安寺 鎌倉後期後半（1330年頃） 花崗岩
相輪上部を欠失するほかは完存。
基礎に三茎蓮（二面）と開花蓮（二面）、上部は反花式。塔身に尊像（四面）。笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面。
『民俗文化』163 1502p
10. 頓宮・東光寺 南北朝（1345年頃） 花崗岩
笠残欠。
笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面
『民俗文化』162 1496p
11. 前野・共同墓地 南北朝前期（1345年頃） 花崗岩 未調査
基礎残欠。
基礎に開花蓮（四面）、上部は反花式
『民俗文化』163 1500p
12. 前野・共同墓地 南北朝前期（1345年頃） 米石
相輪、塔身を欠失。
笠の隅飾は輪郭付三弧で、内部に蓮華座、種子を配した月輪

- 『民俗文化』163 1501p
 (備考) 現在、前野の地安寺に移されている。笠は不明。
13. 黒川・宝泉寺 南北朝前期(?) 未調査
 基礎残欠。
 『民俗文化』166 1542p
 (備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
14. 大河原・善法院 観応2年(1351年) 米石
 基礎(壇上積式)に宝瓶三茎蓮(三面)と素面(一面)。
 『近江の石造美術』1 5p
15. 瀬ノ音・清涼寺 応安2年(1369年) 米石
 基礎、相輪上部を欠失
 塔身に種子(四面)、笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面
 兼康・『民俗文化』368
16. 野上野・白毫寺 南北朝後期(1370年頃) 米石
 基礎(輪郭式)に宝瓶三茎蓮(一面)、格狭間のみ(三面)。
 兼康・『民俗文化』予定
17. 頼宮・東光寺 南北朝後期(1380年頃) 米石
 基礎残欠。
 基礎(壇上積式)に宝瓶三茎蓮(三面)と素面(一面)
 『民俗文化』162 1494p
 (備考) 田岡氏は南北朝前期(1350年頃)
18. 鮎河・今井家墓所 南北朝後期(1380年頃)(24・基礎2) 米石
 基礎(壇上積式)に宝瓶三茎蓮(四面)
 『民俗文化』166 1540p
 (備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
19. 鮎河・今井家墓所 南北朝後期(1380年頃)(29・基礎7) 米石
 基礎(壇上積式)に宝瓶三茎蓮(三面)と素面(一面)
 『民俗文化』166 1541p
 (備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
20. 鮎河・黒河氏墓所 至徳4年(1387年) 米石
 基礎(壇上積式)に孔雀文(一面)と宝瓶三茎蓮(三面)。
 『民俗文化』164 1516p
21. 瀬ノ音・清涼寺 南北朝後期(1390年頃) 米石
 基礎(壇上積式)に宝瓶三茎蓮(四面)。
 兼康・『民俗文化』368
22. 平子・天秀寺 南北朝後期(1390年頃) 米石

基礎（壇上積式）に宝瓶三茎蓮（四面）。笠の隅飾は輪郭付三弧で内部は素面

『民俗文化』163 1503p

（備考） 田岡氏は室町後期（1560年頃）。

23. 平子・天秀寺

南北朝後期（1390年頃） 米石

笠の隅飾は輪郭付三弧で内部は素面

『民俗文化』163 1504p

24. 鮎河・今井家墓所

室町前期（1400年頃）（28・基礎6） 米石

基礎（壇上積式）に宝瓶三茎蓮（四面）

『民俗文化』166 1541p

（備考） 田岡氏の報告には年代表示無し。

25. 鮎河・黒川家墓所

室町前期（1400年頃）（21） 米石

基礎（壇上積式）に宝瓶三茎蓮（四面）

『民俗文化』166 1539p

（備考） 田岡氏の報告には年代表示無し。

26. 鮎河・今井家墓所

室町前期（1400年頃）（27・基礎5） 米石

基礎（壇上積式）に宝瓶三茎蓮（四面）

『民俗文化』166 1541p

（備考） 田岡氏の報告には年代表示無し。

27. 前野・共同墓地

室町前期（1410年頃） 米石

塔身、相輪を欠失

基壇は、複弁三葉と隅に単弁を配する。基礎（壇上積式）に宝瓶三茎蓮（三面）と素面（一面）。笠の隅飾は輪郭付三弧で内部は素面

『民俗文化』163 1501p

（備考） 田岡氏は室町後期（1560年頃）。現在、基壇と基礎は前野の地安寺にあるが、笠は不明

28. 鮎河・今井家墓所

室町前期（1400年頃）（25・基礎3） 米石

基礎（壇上積式）に退化した宝瓶三茎蓮（四面）

『民俗文化』166 1540p

（備考） 田岡氏の報告には年代表示無し。

4. 土山町所在室町時代蔵王産花崗岩（「米石」）製石造美術一覧

① 宝篋印塔

29. 瀬ノ音・清涼寺

室町前期（15世紀中頃） 米石

基礎（壇上積式）に退化した三茎蓮（四面）。

兼康・『民俗文化』368予定

30. 鮎河・今井家墓所(23・基礎1) 室町中期(15世紀中頃～後半) 米石
基礎(壇上積式)に退化した三茎蓮(四面)
『民俗文化』166 1540p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
31. 鮎河・黒川家墓所(17) 室町中期(15世紀末～16世紀初頭) 米石
基礎(壇上積式)に退化した宝瓶三茎蓮(四面)
『民俗文化』165 1534p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
32. 鮎河・今井家墓所(26・基礎4) 室町中期(16世紀前半) 米石
基礎(壇上積式)に退化した宝瓶(?)三茎蓮(三面)と素面(一面)
『民俗文化』166 1541p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
33. 鮎河・黒川家墓所(22) 室町中期(16世紀前半) 米石
基礎(壇上積式)に退化した宝瓶三茎蓮(三面)と素面(一面)
『民俗文化』166 1540p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
34. 鮎河・黒川家墓所(18) 室町中期 米石
基礎(壇上積式)に退化した宝瓶三茎蓮(三面)と素面(一面)
『民俗文化』165 1534p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
35. 鮎河・黒川家墓所(7) 室町中～後期 米石
基礎(壇上積式)に退化した宝瓶三茎蓮(四面)
『民俗文化』165 1531p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
36. 鮎河・黒川家墓所(19) 室町中～後期 米石
基礎(壇上積式)に退化した宝瓶三茎蓮(四面)
『民俗文化』166 1539p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
37. 青土・清涼寺 室町中～後期 米石
基礎(壇上積式)に退化した宝瓶三茎蓮(四面)。
『民俗文化』163 1504p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
38. 鮎河・黒川家墓所(20) 室町後期 米石
基礎(壇上積式)に退化した宝瓶二茎蓮(四面)
『民俗文化』166 1539p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。

39. 鮎河・黒川家墓所(13) 室町後期 米石
基礎(壇上積式)に退化した宝瓶三茎蓮(四面、内二面は格狭間なし)
『民俗文化』165 1533p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
40. 鮎川・黒川家墓所(12) 室町後期 米石
基礎(壇上積式)に退化した宝瓶三茎蓮(一面、格狭間なし)、開花蓮(三面)
『民俗文化』165 1532p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。
41. 鮎河・黒川家墓所(4) 室町後期 米石
基礎に退化した三茎蓮(一面、格狭間なし)、輪郭だけに退化した開花蓮(三面、格狭間なし)
『民俗文化』165 1531p
(備考) 田岡氏の報告には年代表示無し。

② 一石五輪塔

42. 青土・清涼寺 室町後期 米石
全体に不整形。背面は河原石原石肌のまま未調整
兼康・『民俗文化』予定

③ 板碑

43. 瀬ノ音・笹尾峠 明応9年(1500年) 米石
壺形式板碑高さ204cm
『近江の石造美術』3 118p
兼康・『民俗文化』361 4063p

5. 甲賀郡内所在蔵王産花崗岩(「米石」)製石造美術一覧

1. 水口町八光・東見寺 南北朝後期(1390年頃)
基礎、笠
基礎(壇上積式)に宝瓶三茎蓮(四面)。笠の隅飾は輪郭付二弧で内部は素面
兼康・『民俗文化』359 4039p
2. 信楽町宮町・麩飯道寺墓地 室町時代後期 米石? 現在所在不明
基礎(壇上積式)に略式の三茎蓮
『民俗文化』180、181

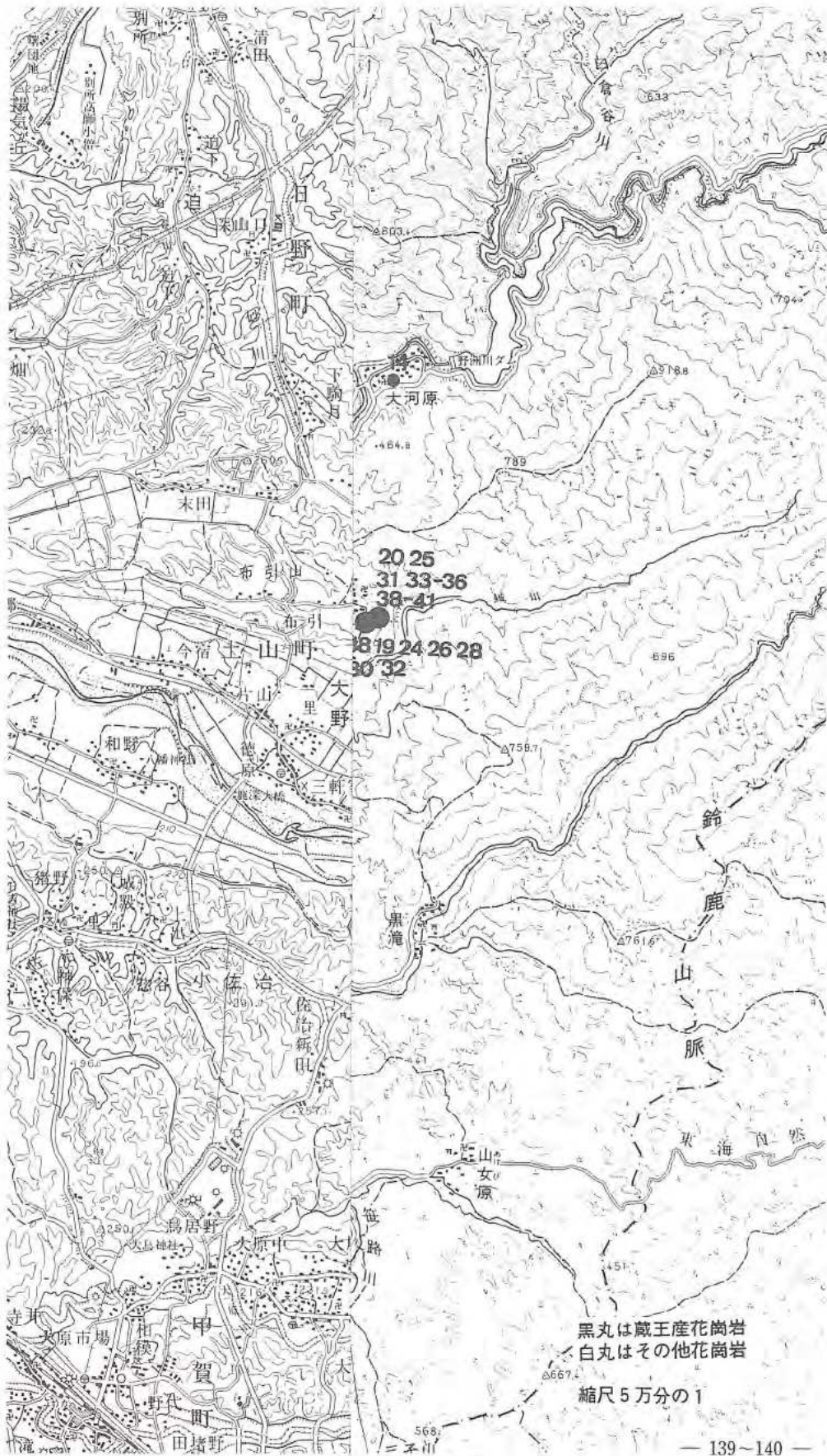
6. 分布状況のまとめ

まず、土山町内にみられる蔵王産の「米石」の中世石造美術を種類別にみると、室町時代中・後期の小形の組合せ式五輪塔や板碑を別にすれば、鎌倉後期の前野共同墓地の層塔(2)と若干南北朝時代かと思われる五輪塔の残欠が認められる¹⁷他は、ほとんど宝篋印塔に限られている。この点は、「米石」中世石造美術の分布する、湖東の各地域とやや異なる点である。

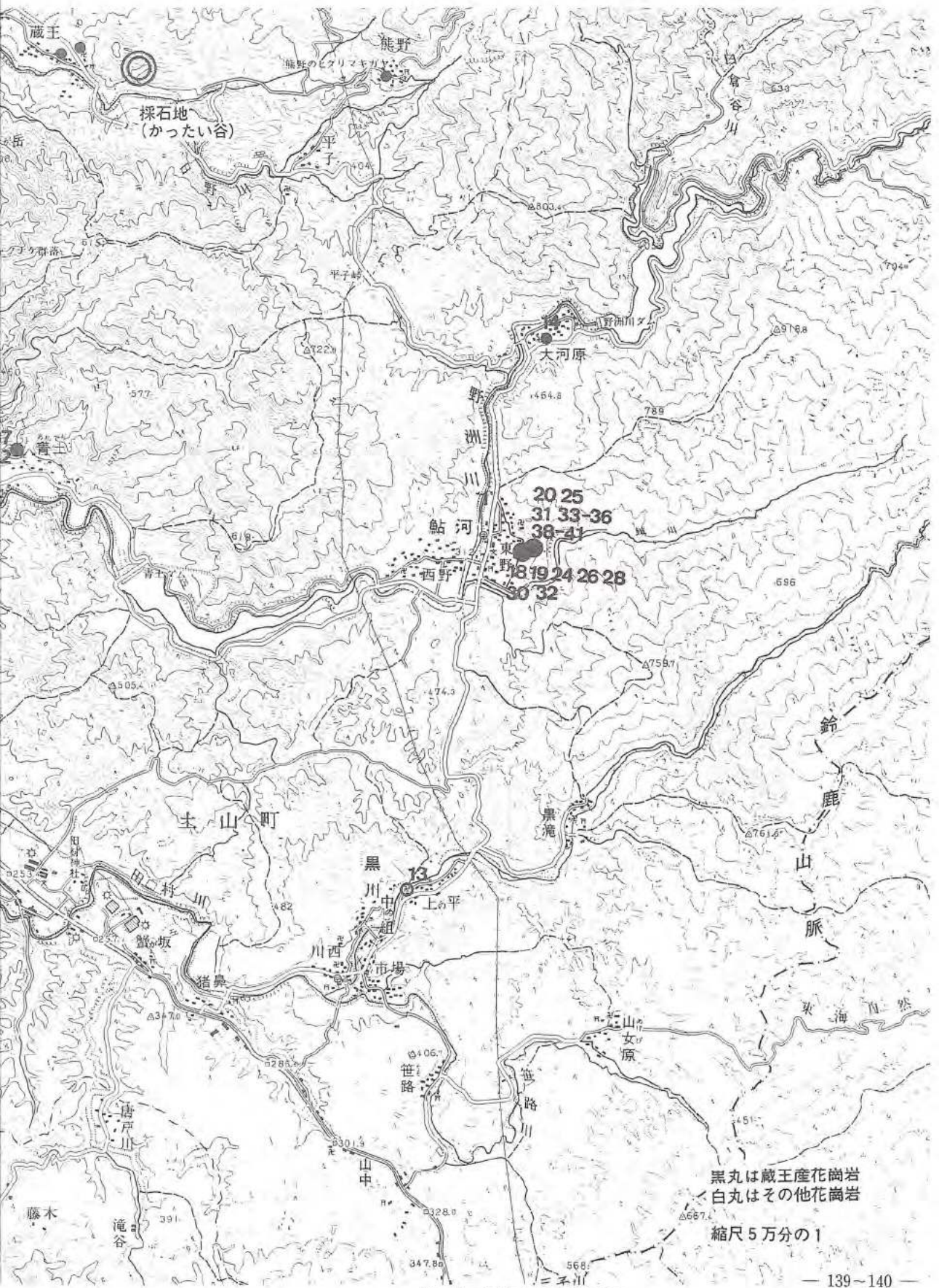
次に年代的にみると、土山町内に、「米石」の中世石造美術が登場するのは、鎌倉後期も1305年頃に編年される、前野共同墓地の層塔(2)を嚆矢とする。これは、編年に問題がなければ、蔵王の石工の成立とほぼ同時期である。しかし、「米石」の中世石造美術が町内で一般的に認められるようになるのは、日野川流域の日野町や蒲生町、愛知川左岸の永源寺町や八日市市東部よりも遅く、南北朝後期になってからのことである。もちろんその間に、土山町に石造美術の造立がなかったのではない。蔵王産の「米石」ではない別な石材—恐らく地元の甲賀郡内産と考えられる花崗岩が用いられていたのである。こうした傾向は、同じように産石地に近い日野町東部と隣接していても、土山町より水口町の方が著しい。水口町では、鎌倉後期から南北朝時代はいうにおよばず、南北朝後期以降もほとんど「米石」の中世石造美術は分布していない。つまり水口町に関して言えば、蔵王の石造美術の盛期である鎌倉後期から南北朝時代前期の製品は、ほとんど蒲生郡と甲賀郡の境界を成す水口の低丘陵を越えて運ばれていないのである。

それでは土山町内での、「米石」の中世石造美術の分布はどのようなのだろうか。土山町内での、「米石」の中世石造美術の分布の特色は、室町時代中・後期の小形の組合せ式五輪塔や小形板碑以外の、手のこんだ宝篋印塔などの石塔は、前野、頓宮を南限にほぼ野洲川上流域に限られている。さらに分布の集中するところが、日野町蔵王に近い、野洲川最上流の鮎河を中心にみられることは注目されよう。ただこの地域は、鎌倉後期～南北朝時代の石造美術造立の盛期には、石造美術の分布がほとんど見られない地域でもある。この地域での最古の遺品は、鮎河よりさらに上流に位置する大河原の、善法院にある南北朝前期の観応二年(1351)銘の宝篋印塔である。その記念すべき最古の遺品が、蔵王産の「米石」製であり、平子峠を通じて日野川上流の蔵王と結びつく、野洲川最上流の大河原にあることは、それ以降の「米石」の宝篋印塔の盛行をみると暗示的である。そしてこの地域で宝篋印塔が一般的に造立されるようになるのは、南北朝時代後期も1380～90年頃以降のことで、中でも鮎河は南北朝時代後期から室町時代を通して、土山町内で最も「米石」の宝篋印塔の密集する地域となっている。

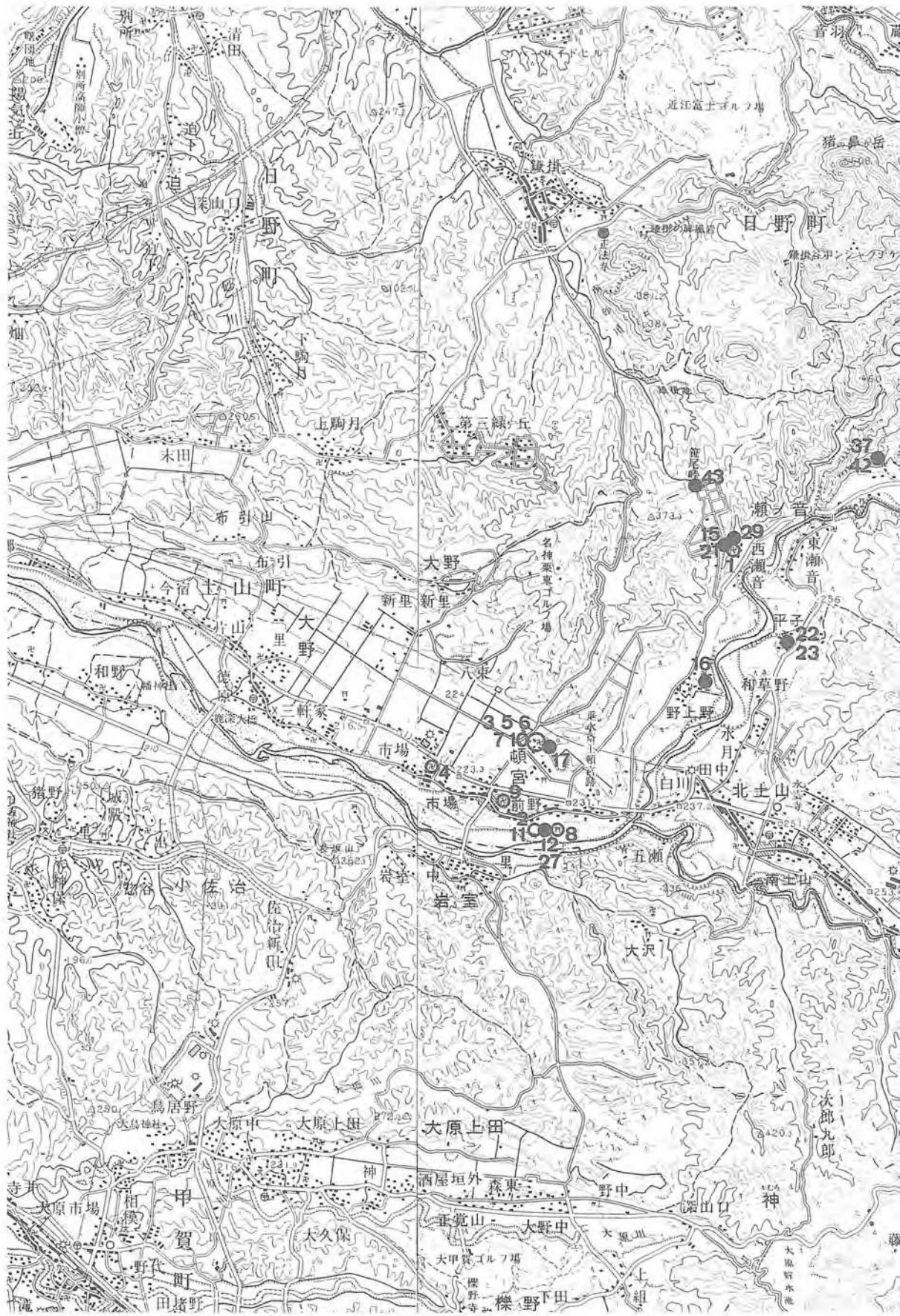
こうした「米石」製の中世石造美術の分布を見るとき、むしろ野洲川最上流の大河原や鮎河などは、甲賀郡にありながらも、その立地からみて、蔵王で造られた石造美術が容易に運び込まれており、日野・蔵王の石造文化圏にあったと考える方が理解を助けはしないだろうか。

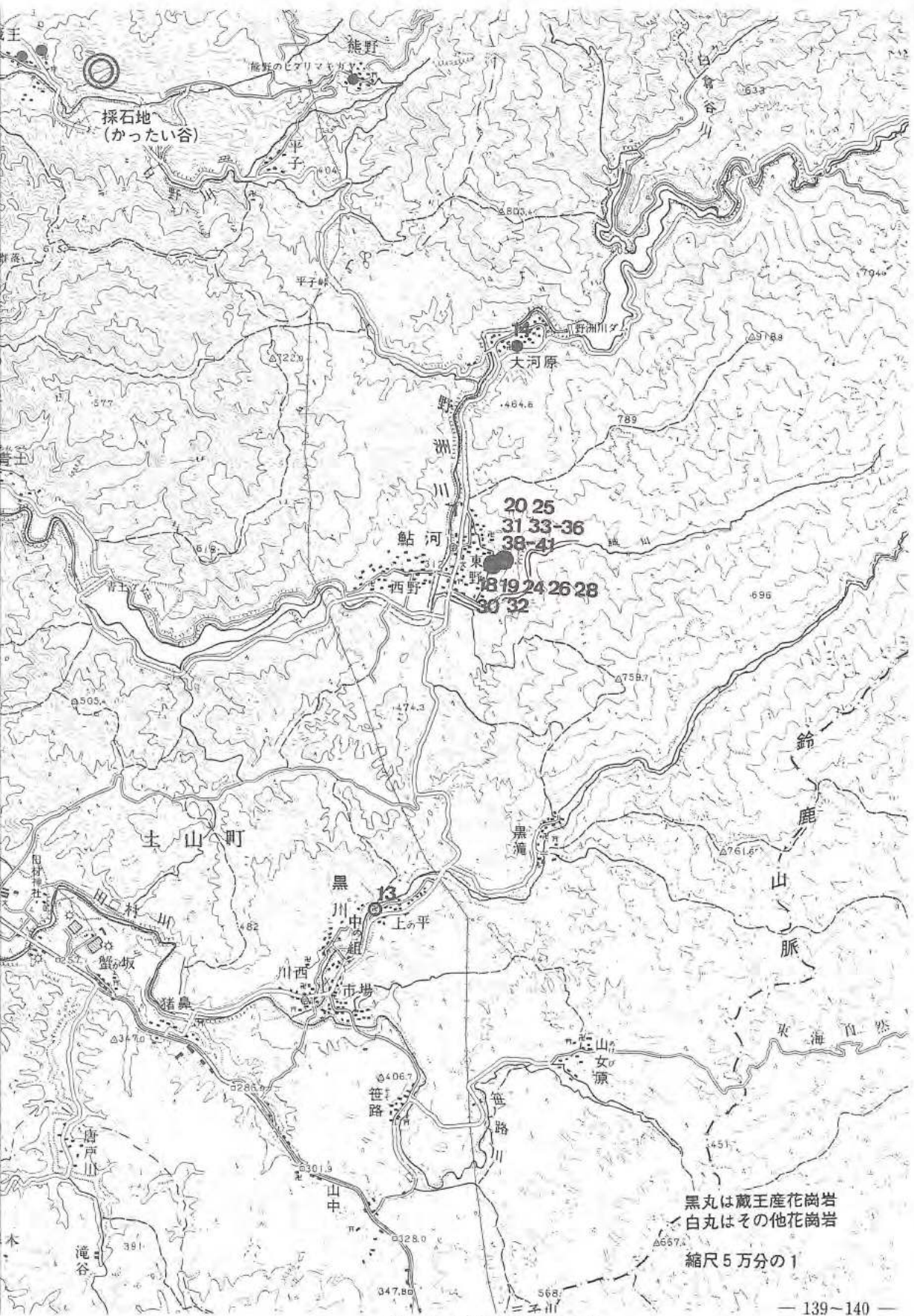






第1図 石造美術石材分布図





第 1 図 石造美術石材分布図

7. 小 結

(1) 日野・蒲生町と土山町の「米石」製宝篋印塔の数量比較

これまでの調査から、近江式装飾文を施した「米石」の中世石造美術の分布が濃厚な蒲生郡日野町、蒲生町と甲賀郡土山町とを時期別に比較してみよう。まず日野町、蒲生町では、鎌倉時代後期から南北朝時代に盛行した近江式装飾文は、小形化の始まる南北朝時代末期～室町時代初期の1400年前後を境に、その遺例は急速に減少して行く。例えば日野町では、石材を問わずにみれば、鎌倉時代後期14基、南北朝時代20基に対して、室町時代9基といった割合である⁽⁸⁾。それに対して、土山町では、野洲川上流部ではあるが、すでに述べたように1400年前後より、基礎に近江式装飾文を施した小形化した宝篋印塔の造立が盛んになる。中でも、鮎河の正等院跡にある黒河家墓所・今井家墓所には、1400年前後の宝篋印塔が6基もみられる⁽⁹⁾。これほど一カ所に中世の宝篋印塔が群集する例は、近江では坂田郡山東町の徳源院にある京極氏墓所⁽¹⁰⁾以外他に例は無い。また、続いて室町時代にも営々と11基の近江式装飾文を施した宝篋印塔が見られるのも、特例といえよう。

近江の南北朝時代末期から室町時代の宝篋印塔をみると、小形化と共に細部意匠の急速な退化が始まり、これまで盛んであった基礎側面の装飾は廃れてくる。また、これまで、鎌倉後期から南北朝時代に基礎側面を近江式装飾文で飾った宝篋印塔や宝塔を多く造立した蒲生郡内でも、こうした塔がほとんど造立されなくなる。この時期に造られた宝篋印塔にみられる三茎蓮文の「日野式B」⁽¹¹⁾は、日野町8基⁽¹²⁾に対して、土山町11基⁽¹³⁾、水口町1基⁽¹⁴⁾、日野町と同じくらい土山町で盛行する。しかし、この時期を最後に、室町時代になると近江式装飾文を施した「米石」製宝篋印塔は、日野町4基⁽¹⁵⁾、蒲生町1基⁽¹⁶⁾と激減する。それに対して土山町では14基⁽¹⁷⁾、信楽町1基⁽¹⁸⁾と分布の中心は土山町に移って行く。この分布状況は、日野町や蒲生町の主要部では、南北朝時代中頃を境に、これまで宝篋印塔を造ってきたような造立主体が宝篋印塔を造らなくなったためであろう。それに対して、土山の野洲川上流部の鮎河を中心とした地域に限っては、新しい造立主体が登場したため、これまでに比べると小形ながらも、宝篋印塔は命脈を保つことになるのである。かくして、鎌倉・南北朝時代に盛行した、近江式装飾文によって飾られた宝篋印塔の伝統が、山間部に残ったのであろう。

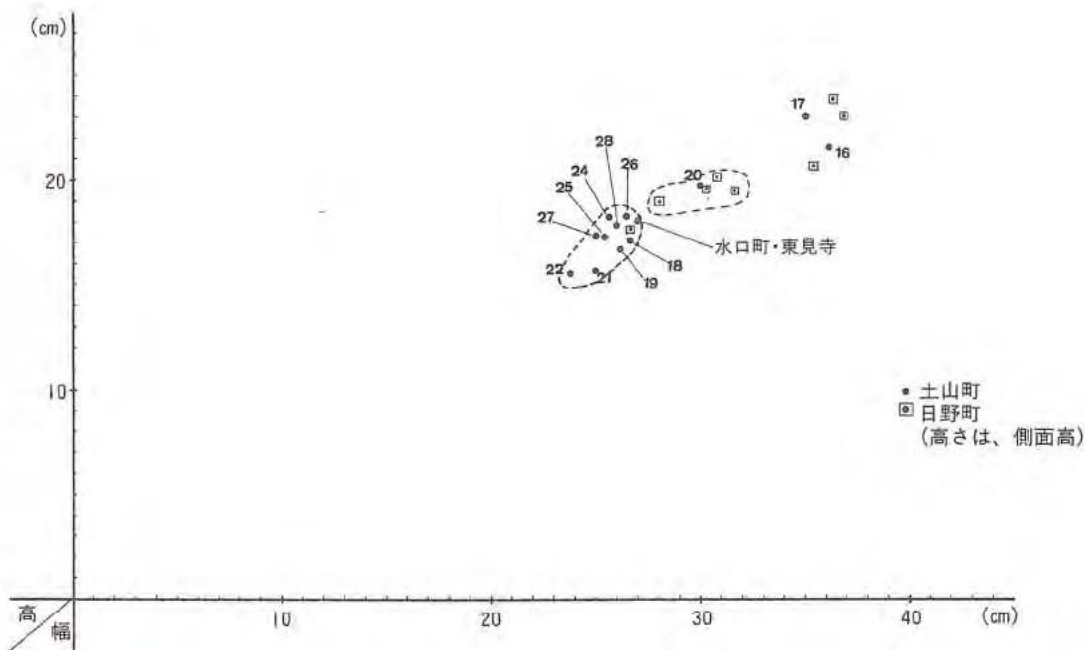
(2) 日野・蒲生町と土山町の「米石」製宝篋印塔の基礎側面法量の比較

土山町で「米石」の宝篋印塔が盛行する時期は、近江全域で宝篋印塔が小形化する時期でもある。地理的にみると、塔を分解すれば、蔵王から平子峠を通して、簡単に土山町にまで運搬することが可能である。そのためか、野洲川上流の山間部ほど分布が濃厚で、とりわけ鮎河はその代表的な場所であることはすでに述べたところである。ただ、日野町や蒲生町から土山町に「米石」の宝篋印塔の分布密度が移る南北朝時代末期以降のこの時期、地域と規模について比較する⁽¹⁹⁾と、興味深い結果が出ている。それは、ほとんど同一形式の構造をした基礎と近江式装飾文をもちながらも、土山町に造立された宝篋印塔の大半は、日野町のものより小形である。もちろん、土山町でも同形式の中で古く編年される野上野・白毫寺⁽¹⁶⁾、頓宮・東光寺⁽¹⁷⁾をはじめ、それよりやや小振りになる鮎河・黒河氏墓所の至徳4年銘塔⁽²⁰⁾などは、日野町内のものに比べて遜色のな

い規模である。しかし、土山町で一般的な基礎の場合は、明らかに日野町のものより規模が小さいのである。その寸法をみると、日野町にあるものは幅32～28cm、側面高さ20～19cmであるのに対して、土山町のもは幅27～24cm、側面高さ18.5～15.5cmである（ただし日野町でも例外的に、安部居の念法寺例のみ、土山町のものと同規模である）。この両者の大きさの違いは、単に石材のメの影響などによる個体差というのではなく、寸法の差は基礎設計時のものであることは明らかである。ただ、日野町と土山町の間、どういう理由で宝篋印塔の大きさに配慮がなされていたのかについては、今後の課題である。

(3) 中世近江式装飾文の終焉

土山町では、室町時代前期の十五世紀の第2四半期頃より、三茎蓮文が退化したワラビ手のような近江式装飾文が鮎河を中心に見られる。同様な近江式装飾文は、日野町、蒲生町、土山町に限られ、分布調査の結果それらは全て「米石」であった。蔵王での三茎蓮文の伝統が、最後まで残ったと見るべきである。しかし、蔵王の石工の特色とでも言うべき、宝瓶の伝統は失われている。最もこの時期になると、他では三茎蓮文をほとんど使用しないため、三茎蓮文を残すこと自体が蔵王の特色と言えないこともない。退化した近江式装飾文の年代については、日野町中山西の共同墓地の永正元年（1504）銘宝篋印塔が年代の一端を知る標準資料となるが、それよりもさらに退化したものもあり、格狭間が無くなる鮎河・黒川家墓所(39)～(41)などは、16世紀後半頃まで残りそうである。今回の土山町の調査で感じた事だが、近江の室町時代の石造美術について、田岡氏の編年は、鎌倉・南北朝時代の石造美術の編年に比べて精緻さを欠いていることである⁽²⁰⁾。改めて、構造、文様などから、編年の再検討が必要である。このように宝篋印塔や小形板碑など



第2図 日野・土山町の南北朝時代末期～室町時代初頭の基礎の比較

に、まだ三茎蓮文をほどこしたのものもあるが、室町時代の蔵王の製品としては、例外的なものである。むしろ室町時代の蔵王の主な製品は、「米石」の玉石を用いた小形の組合せ式五輪塔や小形板碑になっており、これまで石造美術の優品を造ってきた蔵王の伝統を生かしたものではない。かつては、近江を代表する名品を造った蔵王も、この時期には近江各地にみられるごく普通のレベルの製品になってしまっている。

ただ日野町、蒲生町、永源寺町、八日市市、土山町の分布調査を通して、「米石」を用いた定形化した一石五輪塔を確認していないことから、おそらく蔵王ではほとんど一石五輪塔を製作していないと考えてよいのではないだろうか。こうしたことから、蔵王の石工の活動の終末は、近江での一石五輪塔の盛行期である室町後期も天文・天正頃までと考えてきたこれまでの考えを修正するものではない⁽²¹⁾。

註

- (1) 兼康保明「滋賀県蒲生郡日野町における蔵王産中世石造美術の分布—日野町石造美術石材分布調査概要—」(『関西学院考古』9 関西学院大学考古学研究会 1991年 西宮)
兼康保明「滋賀県八日市・永源寺町地域における蔵王産花崗岩製中世石造美術の分布—八日市市・永源寺町—石造美術石材分布調査概要—」(『紀要』6 滋賀県文化財保護協会 1993年 大津)
- (2) 田岡香逸「滋賀県甲賀郡土山町鮎河の石造美術」(『近江の石造美術』1 民俗文化研究会 1968年 大津)
- (3) 兼康保明「東見寺の石造美術—甲賀郡水口町—」(『民俗文化』359 滋賀民俗学会 1993年 大津)
- (4) 池内順一郎『石造遺品』2集—滋賀県甲賀郡土山町の部—(1968年)
- (5) 兼康保明「清涼寺の石造美術—甲賀郡土山町瀬ノ音—」(『民俗文化』368 滋賀民俗学会 1994年 大津)
兼康保明「土山町の石造美術・補遺—甲賀郡土山町野上野、青土—」(『民俗文化』号数未定 滋賀民俗学会 1994年 大津)
- (6) 田岡香逸「近江土山町の石造美術(前)—鮎河と黒川—」(『民俗文化』164 滋賀民俗学会 1977年 大津)
田岡香逸「近江土山町の石造美術(中)—鮎河と黒川—」(『民俗文化』165 滋賀民俗学会 1977年 大津)
田岡香逸「近江土山町の石造美術(後)—鮎河と黒川—」(『民俗文化』166 滋賀民俗学会 1977年 大津)
- (7) 頓宮・東光寺に塔身に種子を彫ったものなどがある。
- (8) 田岡香逸『近江の石造美術』3(民俗文化研究会 1976年 大津)による。
- (9) 基数は基礎のみの数。
- (10) 肥後和男「京極氏歴代墳墓」(『滋賀県史蹟調査報告』第5冊 滋賀県 1933年 大津)

田岡香逸「滋賀県坂田郡山東町清滝・徳源院京極家墓所の宝篋印塔群」(『近江の石造美術』

1 民俗文化研究会 1968年 大津)

兼康保明「京極家の墓地」(『石塔工芸』3月号 鎌倉新書 1981年 東京)

(11) 田岡香逸「日野町と近江式装飾文」(『近江の石造美術』3 民俗文化研究会 1976年 大津) 155p

田岡香逸によって命名された、南北朝末期から室町初期にかけてみられる、「日野式B」と呼ばれる三茎蓮文は、日野町およびその周辺部にのみ見られるものである。その分布は、これまで石造美術のなかった日野でも各河川の上流部に見られ、同様な環境にあった土山にも見られることから、山間部にのみ見られる一地方色とされているものである。

(12) 奥の池・八幡神社、鎌掛・原小野地藏堂、安部居・念法寺、熊野・共同墓地、西大路・法雲寺、鎌掛・正法寺墓地、蓮花寺・信楽院、小野・西法寺。

(13) (16)~(19)、(21)~(28)。

(14) 水口町八光・東見寺。

(15) 日野町佐久良・仲明寺2、中山西・共同墓地、杉・地藏堂。

(16) 蒲生町上麻生・法雲寺。

(17) (29)~(41)。

(18) 宮町・廃飯道寺墓地

(19) 残欠も多く、塔の総高で比較できないため、基礎でその規模を比較した。

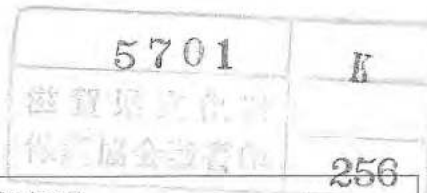
(20) この点については、別な報告でも問題点を指摘しておいた。

兼康保明「東方寺の宝篋印塔—大津市大石富川町—」(『民俗文化』365 滋賀民俗学会 1994年 大津)

(21) 一石五輪塔と「米石」については、兼康保明「滋賀県蒲生郡日野町における蔵王産中世石造美術の分布—日野町石造美術石材分布調査概要—」(『関西学院考古』9 関西学院大学考古学研究会 1991年 西宮) でふれた。それ以降の調査の見解も、ほとんど修正はない。ただ、今回の調査で、青土の清涼寺で「米石」の一石五輪塔が1基発見されたが、形態は通常みられる一石五輪塔のように定形化したものではなかった。

編集後記

今年度は雨が多く冷夏であり、どの現場もいたずらに排水作業を繰り返し時間に追われて苦悩の日々を過ごされたことと思います。本紀要も、第7号を迎え、本号には予想を越える14編の論考を掲載することが出来ました。調査に追われながらも、日頃の各自の問題意識と研鑽の結果であるといえるでしょう。本号が「近江」や「文化財」への理解の一助となり、読者の方々からの御指導、御鞭撻が賜れば幸いです。



平成6年3月

紀要 第7号

編集・発行 財団法人 滋賀県文化財保護協会
大津市瀬田南大萱町1732-2
Tel(0775)48-9780・9781

印刷 宮川印刷株式会社
大津市富士見台3番18号
Tel(0775)33-1241